

院内芸術 温かさ演出

磐田で静岡文化芸術大生

静岡文化芸術大の学生がこのほど、磐田市大久保の市立総合病院で、院内で芸術活動を展開する「ホスピタルアート」に取り組んだ。

同大文化政策学部の高島知佐子准教授が担当し、地域交流などを図る学外活動授業の一環。無機質な雰囲気のある病院に季節感を取り入れ、患者満足度を向上させようと学生が主体になって企画した。

学生らは、以前から院内の廊下に掛けられていた絵画の中から、河津桜や赤ん坊の寝顔を描いた作品など「春」や「芽生え」をイメージした作品を集め、並べ直した。壁には、薄

患者の満足度向上へ



薄ピンク色の布を設置し、春らしい絵画を並べ直して温かさを演出する学生ら＝磐田市大久保の市立総合病院

ピンク色の生地を重ね合わせた布を設置し、温かさを演出した。

同学部3年の藤巻嘉月さん(20)は「病院の

小さな楽しみを届けられたら」と話した。

同大はこれまで、浜松労災病院(浜松市東区)と県立こども病院(静岡市葵区)でホスピタルアートに取り組んできた。

(磐田支局・駒木千尋)